

# MUSEUM PRESS

## 鳥取県立博物館ニュース

Newsletter of the Tottori Prefectural Museum

SEPTEMBER 2011 No.

平成23年9月発行

12



山陰鉄道発祥100周年記念・SL山陰路(平成14年11月) 〈境港市教育委員会蔵〉

**企画展** 2011年12月3日(土)～12月25日(日)

鳥取の表現者 File.03

**「大久保英治 \_あるくことから始まる」** ..... 2

**企画展** 2012年2月11日(土・祝)～3月20日(火・祝)

**「鳥取鉄道物語 -山陰線開通100年-」** ..... 3

[自然] 資料紹介「古生代の南国リゾートにようこそ! -鳥取県立博物館のサンゴ化石資料-」 ..... 4

[人文] 資料紹介「坂本龍馬脱藩の記録」 ..... 5

コラム「米子は鉄道の町」

[美術] 美術常設企画展示「画家と旅-画家たちは異国で何を見たか」 ..... 6

新収蔵品紹介「岩宮武二《佐渡》」

[山陰海岸学習館だより]小・中学校へのジオパーク学習支援 ..... 7

[入館無料のお知らせ] ..... 7

講座・観察会・毎週土曜はアートの日! ..... 8

**企画展「ジョルジョ・モランディ展 モランディとの対話 -デ・キリコからフォンターナへ」 中止のお知らせ**

本年4月より、豊田市美術館(会期:4月9日～5月29日)、鳥取県立博物館(会期:6月5日～7月14日)、神奈川県立近代美術館 葉山(会期:7月23日～9月19日)の3館を巡回する予定であった展覧会「ジョルジョ・モランディ展 モランディとの対話-デ・キリコからフォンターナへ」は、先般の東日本大震災と原子力発電所の事故の影響で、イタリアから借用する作品が保険の適用から外され、当初の予定で展覧会を開くことが不可能となりました。

その後も本展覧会を実現するために、3館で会期の調整等を行い、延期して開催する方途を探ってまいりましたが、今日になっても原発事故による様々な問題は解決しておりません。また、会期を変更して開催する場合、出品の内容を大幅に変更しなければならないことも判明いたしました。

これらの事情を勘案し、大変残念ではございますが、標記の展覧会の開催を中止することに決定しました。これまでご協力をいただいたの方々、展覧会を楽しみにして下さっていた皆さまには、大変ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。



# 大久保英治 あるくことから始まる

「シリーズ 鳥取の表現者」は、鳥取にゆかりのある、現在活躍中の作家や近年亡くなったが活発な制作をしていた作家を、年齢、ジャンルに制限を設けることなく、広い視野を持ってとりあげ、紹介していこうとするシリーズ企画展です。平成23年度は、「大久保英治 あるくことから始まる」を開催します。

大久保英治(1944年~)は兵庫県出身で、現在、鳥取県岩美町内と大阪市内にアトリエをもつ美術家です。鳥取県内では、アトリエを設けた1999年以降今日まで、野外設置作品を中心に旺盛な制作活動を行ってきました。またその間、国内外で個展を開催し、越後妻有アートトリエンナーレなど様々なグループ展にも参加しています。大阪では鳥取の若手アーティストらと、自然をテーマにグループ展を開催しました。

歩くということについて大久保は、「(四国の遍路道を歩いて作品を制作していた時)私は旅の終わりに近づく数日は歩くことが日常になり、「歩くことが旅」になっていたように思う。しかし反対に「歩くことは美術の原点」であるとの意識を強く再確認した」と記しています(大久保英治「四国の天と地の間 ~旅の日記より」より・『大久保英治 四国の天と地の間』展図録、1999年、徳島県立近代美術館編所収)。本展では、そのように歩くことを突き詰めることから様々な表現を展開してきた大久保の仕事を、過去の作品と資料からなる展示と、本展会場で制作する新作を中心とした展示と

の二部構成により紹介します。

## ○第1部「なにものかに則してあるく、或いは非日常の歩行」

大久保はこれまで、空海や芭蕉といった、長い距離を歩くなかで自己を見つめ、深い思想や表現を生み出してきた歴史上の人物の精神を追体験するようにして、山間部や海辺、都市などに残る旧道を中心に歩き、その体験のなかで得られたインスピレーションをもとに作品を制作してきました。作品は、訪れた場所で、その場で得られた素材をもとに「しるし」のような、ささやかなオブジェとして制作されたり、地図と写真、絵と文字を組み合わせたドロ잉になったりと実に多様です。当館でも平成17年度から平成19年度にかけて、大久保を講師に、江戸後期(1798年)に鳥取県内を訪れ7体ほど木彫像を残した遊行僧・木喰五行上人(1718年~1810年)の足どりを参加者と一緒にとどりながら、各所で作品を制作する「歩くワークショップ」を開催しています。第1部では、この文脈で制作された過去の作品と資料を、他県美術館や作家が所蔵する作品を中心に紹介します。

## ○第2部「おのずからあるく、或いは日々の歩行」

一方、大久保は近年、歴史的な人物の痕跡をなぞるような歩行だけではなく、毎日の散歩といった私たちにもなじみ深い日常的な歩行にも目を向け、そこに潜んでいる表現の種のようなものにアプローチし、増幅させる試みを行っています。ここには「美術と日常の境界を揺さぶり、接近させたい」という大久保の考えが反映されています。第2部では、この考え方に基づいて、日々の歩行の中で作家が採取した素材などをもとに会場で制作する新作インスタレーションを中心に紹介します。そのうち、《水の音》というタイトルの新作では、会場に茶碗やカップなど普段使いの器を沢山並



平成19年「大久保英治とたどる木喰上人の道Ⅱ」の歩行風景(三朝町内)

べて水を張り、水面に触れるか触れないかの高さに、作家が路上で拾った様々な物体を天井から吊るします。本作には、「雨粒(別の世界から来る何か)が水(私たちの日々の世界)に落ちる(出会う)ときの音はいつも私の想像力を刺激する。天と地が出会うこの音は、日常のなかに常に創造的な瞬間が隠れていることを実感させてくれる」と言う大久保の感性が生かされています。

会場ではその他にもユニークな作品が制作、展示されます。新しい表現との出会いをぜひお楽しみいただきたいと思います。

(美術振興課 三浦 努)

- 会 期  
 公開制作期間:11月16日(水)~12月1日(木)  
 ※21日(月)、28日(月)の公開制作作業は休みです。  
 展示公開期間:12月3日(土)~25日(日)
- 会 場 2階 第1・2特別展示室
- 料 金 個人当日/400円  
 個人前売、20名以上の団体/300円  
 ※公開制作期間中は入場無料です。
- 関連行事  
 ○「アートボランティア入門」  
 ※作家の制作活動にふれる(サポートする)機会として  
 11月26日(土)午後1時~4時 企画展会場(無料)
- トークセッション  
 12月3日(土)午後2時~3時30分  
 企画展会場(要入場料)、講堂  
 講師:森芳功氏(徳島県立近代美術館専門学芸員)、大久保英治氏  
 定員:250名(申込不要・先着順)
- 企画展担当学芸員によるギャラリートーク  
 12月10日(土)、12月17日(土) 午後2時~3時  
 企画展会場(要入場料)
- ・あなたの器を大久保英治作品の素材に!  
 新作《水の音》のために、もう使わなくなったあなたの器をご提供ください。ご飯茶碗から湯呑まで、何個でもけっこうです。展覧会後に返却をご希望の方はお申し出ください。
- 受付期間:11月18日(金)~26日(土)10:00~16:00  
 ※21日(月)は休み。
- 受付場所:本展公開制作会場(第2特別展示室)



平成17年「大久保英治とたどる木喰上人の道Ⅰ」で大久保が制作した作品(鳥取市内)

# 鳥取鉄道物語 — 山陰線開通100年 —



山陰線の測量士一行(明治38年)〈朝妻睦夫氏蔵〉



米子駅前の出征式(米子市立山陰歴史館蔵)

平成24年(2012)は、鳥取県が鉄道で全国と結ばれて100年になります。県内の鉄道建設は、明治25年(1892)に公布された鉄道敷設法で「舞鶴-豊岡-鳥取-松江-浜田-山口間」と、「姫路-鳥取間」か「岡山-津山-米子-境間」あるいは「倉敷-境間」が予定線として定められたことにはじまります。33年に境を起点に測量がはじまり、35年11月1日に境-御来屋間が開業しました。その後、御来屋から東、米子から西へ路線が延長され、37年に倉吉まで、40年に鳥取まで開業しました。これと併行して兵庫県側からも工事が進められ、44年に余部鉄橋と桃観トンネルが完成し、翌45年3月1日、ついに山陰線・京都-出雲今市(現、出雲市)間が開業しました。この後、倉吉線、伯備線、因美線、若桜線など、後の国鉄の路線や、岩井軌道、法勝寺電車、皆生電車などが、順次営業を開始します。

鉄道により、他地域への移動時間が短縮され、輸送量が増大したことによって、鳥取県内の産業や人々の暮らしは大きく変わります。今回の企画展では、県内の鉄道の歴史を振り返ることによって、鳥取県の100年の歩みを紹介します。

展示では、最初に鉄道の敷設を求める県民の嘆願書や、建設工事の様子を伝える古写真などを中心に、山陰線及び県内各路線の開通の経緯を紹介します。特に、県内各地で伝えられる「自分の町に鉄道が通らなかったのは、敷設を反対したからだ」という

『鉄道忌避伝説』を再検討し、明治時代の県民の鉄道に対する意識を見直します。

鉄道開通により、他府県への移動時間が大幅に短縮され、輸送量が増大し、県内産業も大きく発展しました。鉄道による観光客の来県、二十世紀梨の県内特産品の全国各地への輸送など、鉄道による移動や流通の様子を、観光ガイドブックや統計資料、古写真、映像で紹介します。

また、日本の鉄道は当初から、兵士や軍需物資の輸送など、軍事利用が想定されていました。日本の近代化は「富国強兵」をスローガンに推進されましたが、鉄道は経済発展、軍事力増強の両方に深く関わっていたのです。このためアジア・太平洋戦争末期には、県内でも昭和二十年七月、大山口駅で列車が銃撃されるなど、アメリカ軍の攻撃目標になりました。こうした鉄道と戦争との関わりを写真、古記録で紹介します。

その他、集団就職、甲子園大会の応援列車など、鉄道と県民生活との様々な関わりを紹介します。また、鳥取県内を走った機関車等の図面、ヘッドマーク、ナンバープレートなども展示します。

なお、展示室内には、Nゲージ、プラレールの大型レイアウトを設置します。Nゲージは、鉄道サークル「鉄」

に協力いただき、これまで鳥取県内で使用された車両を走らせてます。プラレールは、ご持参いただいたお持ちの車両を走らせていただくことも可能です。関連事業としてミニSLの運行も行います。

どうぞご期待ください。

(学芸課 石田 敏紀)



松崎駅の梨列車の出発式(昭和35年頃)〈三原屋写真館蔵〉

- 会 期:2012年2月11日(土・祝)～3月20日(火・祝)
- 休館日:2月20日(月)・2月27日(月)
- 会 場 2階第1・2特別展示室
- 料 金 個人当日/500円
- 個人前売、20名以上の団体/400円
- 大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料
- 関連行事
- ワークショップ 立体絵画に挑戦!
- 日時/2月18日(土)14:00～16:00(要申込)
- 場所/会議室
- 特別講演会「鉄道から見える日本 -山陰線と鳥取県の近代化-」
- 講師/原武史氏(明治学院大学教授)
- 日時/3月4日(日)14:00～15:30(予定)
- 場所/講堂
- ミニSL運行
- 日時/3月10日(土)10:00～15:00(雨天中止)
- 場所/鳥取市立久松小学校校庭
- ギャラリートーク
- 講師/担当学芸員
- 日時/2月11日・18日、3月3日(土)11:00～
- 場所/企画展会場(要入場料)

# 古生代の南国リゾートによろこそ!

## —鳥取県立博物館のサンゴ化石資料—



写真1.ペルム紀の四放サンゴ(ワーゲノフィルム) 岐阜県赤坂産



写真2.デボン紀の床板サンゴ(ハチノスサンゴ) 福井県上伊勢産

みなさん、この写真1や写真2に写っているものが何かわかりますか?

ただの石のようにもみえますが、実はサンゴの化石です。これらの資料は当館1階自然展示室の「古生代の化石」コーナーに展示されています。今回は博物館に収蔵されているサンゴ資料を紹介しながら、一般にはあまり知られていないサンゴについて解説します。

まず、サンゴとはどんな生き物なのでしょう? サンゴはよく植物に間違えられますが、クラゲやイソギンチャクの親戚にあたる「動物」です。一般的にイメージされるサンゴの形は、実はたくさんの小さな個体が集まったもので、ひとつひとつは小さなイソギンチャクのような姿をしています。おなかが減ると、海中の動物プランクトン等を触手で捕らえて食べます。地球の歴史で最初にサンゴが現れたのは、恐竜が出現するよりずっと前、古

生代と呼ばれる時代です。この時代には、四放サンゴ(写真1)や床板サンゴ(写真2)といった、今のサンゴとはまったく異なる種類のサンゴがサンゴ礁をつくっていました。これらのサンゴが絶滅した後は、現在も含めて六放サンゴという骨格のでかたがまったく違うサンゴが中心となってサンゴ礁をつくっています。いずれの時代のサンゴ礁も、今のサンゴ礁と同じように、多種多様な生き物のすみ場所となっていました。また、これらのサンゴの化石は、浅い暖かな海の示相化石(その生き物が生きていた時の環境を教えてくれる化石)として、理科の教科書にも取り上げられています。今も昔も、サンゴは浅くて暖かい、豊かな海の象徴なのです。ぜひ、当館のサンゴ化石を御覧いただき、大昔のサンゴ礁に思いをはせ、古生代の南国リゾート気分になってみてください。

このように南国のイメージが強いサンゴですが、な、な、なんと!!実際には今も昔も、深い海や冷たい海にもたくさんすんでいます。たとえば、写真3をご覧ください、このサンゴは山陰海岸で採集された六放サンゴで、オノミチキサンゴといいます。たくさんの個体が集まっているサンゴで、成長すると50cm以上の大きさになります。骨格は真っ白ですが、生きているときは鮮やかなオレンジ色で、触手が出てくると、お花が咲いたようにきれいです。この写真の生きたサンゴは、山陰海岸学習館で現在も飼育中です。また、写真4は鳥取沖の水深約100mで採集されたタマサンゴというサンゴで、深い海の砂や泥の海底にすんでいます。一般的なサンゴに移動能力はありませんが、このサンゴは海底の上を自分の力で移動することができます。鳥取では、大昔の日本海にすんでいたサンゴの化石もたくさん産

出しますので、日本海のサンゴの歴史について、これから研究を進めていきたいです。  
(学芸課 徳田 悠希)



写真3. 現生の六放サンゴ(オノミチキサンゴ) 兵庫県釜谷沖産



写真4. 現生の六放サンゴ(タマサンゴ) 鳥取県賀露沖産

# 坂本龍馬脱藩の記録

坂本龍馬といえば小説やテレビドラマなどで取り上げられる幕末のヒーローのひとりです。県立博物館が所蔵する幕末期の政治情報をひとまとめにした記録のなかに、龍馬脱藩の記述があります。

この記録は文久二年（一八六二）四月に、土佐藩の江戸御留守居若尾直馬が、幕府の老中に提出した脱藩者の届け書を、鳥取藩側が入手し、写しとったものです。龍馬のほかに土佐藩の参政吉田東洋を暗殺した大石団蔵、のちに尊王攘夷派の浪士集団（天誅組）を率いて、大和国（現奈良県）の代官所を襲撃した吉村寅太郎、そして龍馬と一緒に脱藩した沢村惣之丞ら五名が記されています。

ところで沢村の名前をよくみると、

「沢村惣直」とあり、明らかな誤写とわかります。このような間違いが起こったのは、彼らの名が当時ほとんど世に知られていなかったためでしょう。

どうして名前も知らない土佐藩浪人のことを、鳥取藩はわざわざ記録したのでしょうか。龍馬の脱藩は、文久二年（一八六二）三月のことですが、この当時、薩摩藩や長州藩による政治行動に心をかき立てられた志士のなかには、同じように脱藩を企てるものがあり、鳥取藩も例外ではありませんでした。石川一や尾崎孝基らといった藩士が脱藩し、その動きが連鎖的にひろがる傾向にありました。石川たちはやがて土佐藩の脱藩者らと組んで、京都等持院にある足利将軍三代の木像の首



土佐藩脱藩者の記録（左から2番目が龍馬）

をさらした事件や、天誅組の拳兵に加わっていくこととなります。脱藩者とはいえ、幕府にたてつく行為は、鳥取藩にとって好ましい事態ではなく、その活動に警戒を強めていました。

無名に等しかった坂本龍馬が、鳥取藩の記録に残されたのは、こうした藩の枠組みを越えてつながり合う脱藩者らの不穏な動きを把握するため、土佐藩に協力を得て、情報を収集したものと推測されます。

（学芸課 来見田 博基）

## コラム

# 米子は鉄道の町

鳥取県西部の商業都市、米子は鉄道の町ともいわれます。現在もJR米子駅に降り立つと、蒸気機関車の主動輪とともに「山陰鉄道発祥の地 米子」という記念碑（平成9年建設）が目に見え込んできます。

鉄道の開通は、交通（流通）の変化だけでなく、経済の活況、新しい会社の設立、繁華街の移動など、さまざまな現象を起こしました。近代における商都米子の変化を見てみましょう。

開通当時（明治35年）の境一御来



機関車職場  
（『創立五十周年記念寫真帖 國有鉄道後藤工場』昭和27年）  
＜米子市立山陰歴史館蔵＞

屋間の停車駅は、大篠津、後藤、米子、淀江でした。このうち、弓ヶ浜地方の後藤と大篠津、両駅は繭の出荷地としてにぎわったといえます。特に大篠津には繭の市場があり、弓ヶ浜全体の繭の集散地でした。これにより、繭を買い付ける業者、養蚕の指導員、京都の染物屋などが定期的にやって来るため、旅館や飲食店が発達したのだそうです（その大篠津駅も空港の拡張に伴って移転、「米子空港駅」に改称したのは平成20年、記憶に新しいところです）。

鉄道の発達により、馬車を使った運送業も各駅に基盤を置くようになりました。木材の輸送業者を例に出しますと、伯備線開通（大正8年、伯耆大山一溝口まで部分開通、昭和3年倉敷まで全通）以前は、朝の4時頃江尾に向けて出発して夜遅く帰ってくるのが日課であったそうですが、開通後は駅に着いた木材を配達すればよいようになり、その分扱う物量が増えて多くの人を雇うようになったといえます。



米子駅と列車の写る絵葉書（明治41年消印）

新設会社の中でも、鉄道関連として、最も重要なものに後藤工場（現JR後藤総合車両所）があります。同工場は、はじめ米子駅構内に仮工場として出発し、その後作業量が急増したため、大正7年に現在の日ノ出町に創立されました。これにより、鉄道関係職員の雇用が増加しました。工場人口の増加は、地域の発展を促し、現在の角盤町・朝日町・日ノ出町周辺発展に至っています。

なお、大正から昭和の初めにかけての人気職業は鉄道員で、その理由は、きれいな服装をして、豪華な弁当を食べ、官舎に住めるからだということでした。当時の男子は、中等学校を出たら、市役所や銀行を敬遠し、鉄道員になるのが夢であったといえます。このあたりも、昔も今も役人（公務員）の多い東部の行政都市、鳥取と対照的です。（学芸課 福代 宏）

※このコラムは、聞き取りの他、「米子商業史」（平成2年）、「新修大篠津郷土誌」（平成13年）などを参考にしました。

# 画家と旅 — 画家たちは異国で何を見たか

古来より旅をする画家は多く、鳥取県出身の画家たちもまた例外ではありません。当館では平成24年2月18日から3月25日まで、収蔵品を中心とし

た展覧会「画家と旅—画家たちは異国で何を見たか」を開催し、旅や留学が画家たちの制作にもたらしたものについて考えます。

個性を伸ばすべく努力を重ねます。

次いで第二章では、アジアや南洋に画題を求めた画家を特集します。小早川秋聲は中国をはじめ世界各国を旅して描き、笹鹿彪は日本の委任統治下であった南洋諸島に渡りました。また、日中戦争下の中国を描いた伊谷賢蔵の作品も展示します。

彼らは異国の地で、何を見て、何を感じたのでしょうか。本展では、明治時代後期から昭和時代半ばまでに描かれた絵画に注目し、それぞれの時代背景のもと、画家が異国での経験によって得たものを明らかにしていきたいと思えます。

(美術振興課 竹氏 倫子)

本展では会場を二章に分け、第一章では、パリに留学した前田寛治、香田勝太、森岡柳蔵と、アメリカで学んだ木山義喬をご紹介します。彼らが海を渡った大正時代後期から昭和時代初期は、多くの日本人画家が欧米に滞在した時期でした。比較的落ち着いた社会状況の中で、彼らは西洋絵画の伝統に触れ、自らの



香田勝太《ノートルダム・ド・パリ》昭和3(1928)年、当館蔵

## 新収蔵作品紹介

### 岩宮武二《佐渡》

当館は平成22年度、鳥取県米子市出身の写真家・岩宮武二(大正9～平成元)の写真作品69点を収集しました。本稿ではその中から、初期作品を代表する連作《佐渡》をご紹介します。

本シリーズは、昭和29年から36年にかけて、新潟県の佐渡島で撮影された作品を総称するものです。これらの作品は、昭和37年、写真集『佐渡』(朝日新聞社)にまとめられました。同書に収められたエッセイに、岩

宮は次のように綴っています。「ものごころつくようになって、佐渡について聞くこと読むもの、すべてがあわれで、悲しい物語りだけだったとっていい。(中略)それぞれがもつエレジーは、みな、きわだって印象深く、ときには魅力的でさえあった。ちょうど湧き出る水が、砂地に浸み広がっていくように、島恋いの想いは、齢とともに、つのっていくばかりだった」

岩宮を佐渡へと向かわせたのは、歴史的逸話に由来する厳しく哀切なイメージでした。その印象に合致する光景を撮るために、彼は冬を中心に取材旅行を行います。そして、島の自然、人々の信仰、民俗行事、暮らしのあり方に焦点を定めることにより、佐渡という土地の個性を捉えようと試みました。



岩宮武二《佐渡》より べった(七浦海岸) 昭和29～36年撮影

《佐渡》の作品が湛える緊張感と臨場感は、岩宮の鋭い観察眼と、事実を見つめる強靱な精神力を感じさせます。のちに岩宮は、日本の伝統的なかたちやアジアの仏像をテーマとした作品を国内外で発表し、日本を代表する写真家の一人として活躍しました。対象に誠実に向かい、事物の根本的な性質を探ろうとする姿勢は、岩宮作品に一貫する大きな魅力となっています。

(美術振興課 竹氏 倫子)



岩宮武二《佐渡》より 風浪(七浦海岸) 昭和29～36年撮影

# 小・中学校へのジオパーク学習支援

山陰海岸学習館は、昨年4月に山陰海岸ジオパークの拠点施設としてリニューアルオープンし、来館者が今年7月2日には5万人を超えました。拠点施設になってからは、山陰海岸ジオパークについて学習するために遠足などの校外学習や総合的な学習の一環として地元の岩美町をはじめ、鳥取市や八頭町の小学校や中学校の利用が増えてきました。

今年6月には、岩美中学校の1年生約110名が山陰海岸ジオパーク研修会として、山陰海岸学習館を訪ねてくれました。この研修会では、生徒たちが山陰海岸ジオパークの地形・地質の成り立ちやそこにすむ生き物について大まかに概要を知り、実際に大谷海岸の現地に行って学習を深めるために解説を依頼されました。

現地では、大谷海岸の砂浜やその背後の広大な砂丘地をつくりあげる砂のでき方や駒馳山山麓の礫浜のでき方について解説しました。また、礫浜には大きな溶岩の塊があること、礫浜には7種類の石ころがあり、その石ころは駒馳山をつくるもので堆積岩や火山岩があることを、実際に石こ



大谷海岸での溶岩塊の解説

ろを採集して実感してもらいました。最後は場所を駒馳山峠に近い小畑古墳公園に移し、石室を構成する石に駒馳山の岩石が使われていることや古墳直下に広がる大谷平野（田園）は砂丘背後の潟湖（ラグーン）を干拓してできたものであることなど、ジオパークと人との関わりについても解説しました。



小畑古墳公園での解説

山陰海岸ジオパークが世界ジオパークとして認定されたことで、多くの集客が期待されており、それに応える必要があります。また、未来を担う小・中学生に自分たちの住む地域の自然に目を向けてもらうこと、世界に認められた山陰海岸ジオパークのさまざまな魅力を知ること、ふるさとを誇りに思う子どもたちを育てることも望まれています。そのためにも、小・中学校に山陰海岸学習館をジオパーク学習の場として利用していただくことをお勧めします。さらに、子どもたちにジオパーク学習を指導する小・中学校の先生方への支援ができるよう、これまで以上に密に連携していきたいと思えます。

(山陰海岸学習館 山口 勇人)



山陰海岸学習館での展示解説

## ■ 学習館で行う普及活動一覧 (平成23年度下半期)

### 《野外観察会》

「山陰海岸ジオハイキング 岩戸～滝ヶ磯編」

10月16日(日)午前9時～12時

集合場所/岩戸漁港

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順)

申込開始:10月2日(日)～、電話のみ

### 《野外観察会》

「ジオパークの秋の夜空を楽しもう!」

10月16日(日)午後6時30分～8時30分

場所/山陰海岸学習館駐車場

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員:なし、申込不要

### 《野外観察会》

「打ち上げ貝で宝さがし～さまざまな形や色を楽しむ～」

10月30日(日)午前9時～12時

場所/城原海岸

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順)

申込開始:10月16日(日)～、電話のみ

### 《自然講座》

「化石クリーニングを体験しよう!」

11月5日(土)、13日(日)午後1時～4時

場所/山陰海岸学習館

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員:各20名(先着順)

申込開始:10月23日(日)～、電話のみ

※申込、問合せは山陰海岸学習館へ

鳥取県立博物館付属

**山陰海岸学習館**

San'in Kaigan Nature Museum



■入館料:無料

■開館時間:9時～17時(入館は16時30分まで)  
(入館は17時30分まで)

■休館日:毎週月曜日

(祝日の場合は翌平日が休館日)

国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)

年末年始(12月29日～1月3日)

【お問い合わせ】〒681-0001

鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話:0857-73-1445

FAX:0857-73-1446

http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/

## 県立博物館(本館)からのお知らせ

大学生までの学生・生徒の方、70歳以上の方は  
(常設展・企画展とも)

# 入館無料

# INFORMATION お知らせ

※企画展の関連イベントについては、P2・P3もご覧ください。

## 講座・観覧会・毎週土曜はアートの日! LECTURE・FIELD STUDY・SATURDAY ART FEVER

■自然部門 ■歴史・民俗部門 ■美術部門

2011 10 OCT.	《ワークショップ》 落書きばんざい! -秋編-	■10月1日(土) 14:00~16:00 / 博物館玄関(雨天・会議室) ■幼児・小学生とその保護者 / 30名 / 無料 ※申込期間9月17日(土)~(電話・先着順)
	《天体観望会》 秋の星を見る会	■10月1日(土) 18:30~20:30 / 博物館前庭 ■小学生以上~一般 / 定員なし ※雨天・曇天時は中止
	《講演会》 戦国時代の中国地方と尼子氏	■10月2日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 定員なし
	《ワークショップ》 アートな封筒をつくろう	■10月8日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間9月24日(土)~(電話・先着順)
	《野外観察会》 おちばの中のモンスターをさがそう!	■10月15日(土) 13:00~16:00 / 湖山池青島 ■小学生以上(未就学児の参加も可) / 20名 / 無料 ※申込期間9月22日(木)~(電話・先着順)
	《ワークショップ》 なりきりアート~名画になっちゃおう!	■10月15日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間10月1日(土)~(電話・先着順)
	《野外観察会》 きのこを調べる会	■10月22日(土) 10:00~14:00 / 袴谿公園 ■一般 / 30名 / 無料 ※申込期間9月29日(木)~(電話・先着順)
	《アートシアター》 【アンディ・ウォーホル】	■10月22日(土) 14:00~15:20 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 定員250名(先着順)
	《スペシャルトークセッション》 【地域に開かれた美術館 金沢21世紀美術館の活動】	■10月29日(日) 14:00~16:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 講師: 金沢21世紀美術館 館長 秋元雄史氏
	2011 11 NOV.	《スペシャルアートシアター》 【ヘア&ドローイング~アートの森の小さな巨人】
《講演会》 幕末の鳥取藩 -長州征討と因州兵-		■11月6日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 定員250名 / 無料
《ワークショップ》 触覚で味わう立体作品		■11月12日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間10月29日(土)~(電話・先着順)
《アートセミナー》 【ランド・アートとは何か】		■11月19日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料
2011 12 DEC.	《ワークショップ》 アートボランティア入門	■11月26日(土) 13:00~16:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 10名 / 無料 ※申込期間11月12日(土)~(電話・先着順)
	《野外観察会》 はじめてのバード・ウォッチング	■12月3日(土) 9:00~12:00 / 湖山池青島 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間11月10日(木)~(電話・先着順)
	《トークセッション》 【大久保英治氏&森 芳功氏】	■12月3日(土) 14:00~15:30 / 展示室 ■小学生以上~一般 / 定員250名(要観覧料)
	《ギャラリートーク》 【大久保英治展】	■12月10日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■小学生以上~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《講演会》 鳥取の埴輪	■12月11日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 定員250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 【大久保英治展】	■12月17日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■小学生以上~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■12月18日(日) 14:00~15:00 / 常設展示室内復元民家 ■一般 / 定員なし / 常設展示室の入場料
	《アートセミナー》 【大久保英治の作品について】	■12月24日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 定員40名 / 無料

2012 1 JAN.	《ワークショップ》 墨で描く絵と文字の世界	■1月7日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 定員20名 / 材料費(未定) ※申込期間12月17日(土)~(電話・先着順)
	《アートセミナー》 【子どもと美術館(仮称)】	■1月14日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 定員40名 / 無料
	《アートシアター》 【世界美の旅「ラトゥール」-甦った光の画家- 「レンブラント」-光と影の自画像】	■1月21日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 定員250名 / 無料
2012 2 FEB.	《ワークショップ》 鬼のお面をつくろう	■1月28日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 定員20名 / 材料費(未定) ※申込期間1月14日(土)~(電話・先着順)
	《ギャラリートーク》 【コレクション展Ⅳ】	■2月4日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 無料
2012 3 MAR.	《企画展関連イベント》 ギャラリートーク「鳥取鉄道物語」	■2月11日(土・祝)・18日(土)・3月3日(土) 14:00~14:30 / 特別展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし(要入場料)
	《アートセミナー》 【鳥取の洋画②】	■2月11日(土・祝) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料
	《民俗講座》 わら草履を編もう	■2月12日(日) 13:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 20名 / 無料(要申込)
	《ワークショップ》 立体絵画に挑戦!【鳥取鉄道物語展】	■2月18日(日) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 材料費(未定) ※申込期間2月4日(土)~電話申込・先着順
	《歴史講座》 古文書を楽しむ(町の文書を読む)	■2月19日(日)・26日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■一般 / 30名 / 無料
	《アートシアター》 【「ニューペインティングの旗手たち」】	■2月25日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《ワークショップ》 おひな様の掛け軸をつくろう	■3月3日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 材料費(未定) ※申込期間2月18日(土)~(電話・先着順)
	《企画展講演会》 鉄道から見える日本 -山陰線と鳥取県の近代化-(仮)	■3月4日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 定員250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 【画家と旅-画家たちは異国で何を見たか】	■3月10日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
	《企画展関連イベント》 ミニSL運行	■3月10日(土) 10:00~15:00 / 鳥取市立久松小学校校庭 ■一般 / 定員なし / 無料
《講演会》 鳥取県内の怪談	■3月11日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 定員250名 / 無料	
《アートセミナー》 【伊谷賢蔵の描いた中国】	■3月17日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料	
《歴史講座》 城下町ウォーク-袋川周辺を歩く-	■3月20日(火・祝) 9:00~12:00 / 鳥取市袋川周辺 ■一般 / 20名 / 無料 ※申込期間3月1日(木)~3月19日(月)(電話・先着順)	
《アートシアター》 【「フランク・ロイド・ライト」】	■3月24日(土) 14:00~15:15 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料	
《アートシアター》 【「アルヴァ・アールト」】	■3月31日(土) 14:00~15:15 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料	

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。  
 ※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。  
 ※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。

## 鳥取県立博物館ニュース MUSEUM PRESS No.12

平成23年(2011年)9月28日発行  
 編集・発行 鳥取県立博物館  
 住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地  
 TEL 0857(26)8042(代)  
 FAX 0857(26)8041  
 URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>  
 E-mail [hakubutsukan@pref.tottori.jp](mailto:hakubutsukan@pref.tottori.jp)



## JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース  
 「⑤仁風閣・県立博物館」下車すぐ  
 ループ麒麟獅子Aコース(土・日・祝日のみ)  
 「④鳥取城跡」下車すぐ  
 砂丘・湖山・賀露方面行  
 「西町」下車約400m  
 市内回り岩倉・中河原方面行  
 「わらべ館前」下車約600m



■JR鳥取駅からタクシーで約10分  
 ■当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

**MORRIX** 株式会社 モリックスジャパン  
 鳥取市商栄町203-6  
 TEL 0857-23-3641

引越しは日通  
 フローダイヤル ひっこしは にっつう  
 0120-154022